

東京大学大学院医学系研究科・医学部
男女共同参画委員会主催
第8回医学系キャリア支援のための交流会
開催報告および参加者アンケート集計結果

I. 企画の概要

1. 目的：医学系研究科・医学部、そして、社会において、
 - ①医師・研究者・学生のキャリア形成に対する意識を高める。
 - ②様々なライフイベントを経験しながら前向きにキャリアを切り開く生き方への理解を深める。
2. 日時：2019年6月27日（木） 第一部：16:50～18:00、第二部：18:00～19:00
3. 場所：東京大学医学図書館3階 333会議室（第一部）、310会議室（第二部）
4. 対象：・医学部（附属病院を含む）の学生・教職員
・大学院医学系研究科の大学院生・教職員
・医学に関心のある教養学部学生・高校生など（いずれも男女不問）
※ 他機関からの参加可。事前申込不要。先着100名着席可。

5. プログラム：

司会 細谷紀子・本田郁子

【第一部】

16:50 開会挨拶

（齊藤延人 医学系研究科長・医学部長、芳賀信彦 医学部附属病院 副院長）

16:55 講演

「ある外科系女医（産婦人科医）のキャリアアップについて」

社会医療法人 河北医療財団 河北総合病院 産婦人科部長 三島 みさ子 先生

17:45 質疑応答・全体討論

17:55 中締め挨拶

（佐藤伸一 男女共同参画委員会委員長）

【第二部】

18:00～19:00 自由歓談・情報交換会

6. 企画・運営：

東京大学大学院医学系研究科・医学部男女共同参画委員会（委員長 佐藤伸一）

第8回医学系キャリア支援のための交流会 実行委員会

幹事：細谷紀子・本田郁子

委員：飯塚陽子・庄田宏文・菅谷佑樹・田村純人・野村幸世・春名めぐみ・宮寄美幾

M4：糸数昌史・高橋優輔・中島ひばり M3：岩田千尋・関彩花・田頭祥之助

M2：今村洋介・笠原千晶・鴻野芽依・吉富祐太郎

M1：鐘ヶ江真理子・中村幸大・和田都花 C2：神野登喜子・中桐悠一郎

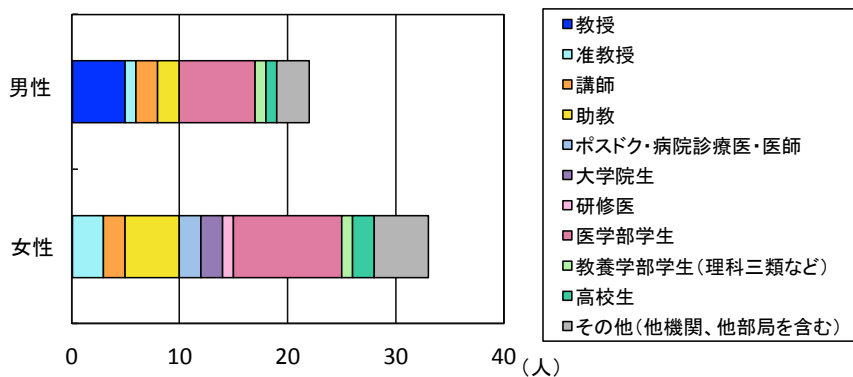
II. 開催報告

1. 参加者数と属性（受付での記帳より）

参加者内訳

職名(特任、客員を含む)	男性	女性
教授	5	0
准教授	1	3
講師	2	2
助教	2	5
ポスドク・病院診療医・医師	0	2
大学院生	0	2
研修医	0	1
医学部学生	7	10
教養学部学生(理科三類など)	1	1
高校生	1	2
その他(他機関、他部局を含む)	3	5
計	22	33

(人)



【ご参加いただいた高校生のご所属（カッコ内は人数）】

都立日比谷高校(3)

2. 当日配布資料

資料1 プログラム

資料2 アンケート用紙

資料3 10月1日(火)開催「医学系キャリア支援のための交流会<特別回>」のチラシ

3. 会の概要

「医学系キャリア支援のための交流会」は、2012年以降、毎年6月の男女共同参画週間に開催されている。8回目を迎える今回は、講師として、河北総合病院産婦人科部長の三島みさ子先生をお招きし、医学系キャリアを形成する上で、ライフイベントに合わせて一時的にペースを落とすことがあっても、本人の努力や周囲のサポート次第で、復帰してキャリアを再形成することができることへの理解を深めることを目指した。

開会にあたり、齊藤延人医学系研究科長・医学部長と芳賀信彦医学部附属病院副院長より挨拶をいただいた。齊藤研究科長・学部長は、今年度の東京大学入学式における来賓の上野千鶴子氏の祝辞が男女共同参画の精神を入学生に深く刻むものであり、強く訴えることの大切さを感じたと述べられた。また、働き方改革が進む中、本学では在宅勤務制度の準備が進められていることを紹介され、これからも制度改革によって男女共同参画がさらに推進される可能性があることと述べられた。芳賀副院長は、以前に所属されていた整形外科では女性が一人もいない時代を経て現在は女性医師が増えて活躍していること、現在所属されている日本リハビリテーション医学会ではリハビリテーション科女性医師ネットワーク(RJN)という組織が活発に活動していることを紹介された。また、東大病院リハビリテーション科の医師の4割が女性であり、皆がそれぞれの働き方でさらに活躍できるよう本交流会での議論を役立てたいと話された。

続いて、男女共同参画委員会委員の藤井知行教授(女性診療科・産科)より演者の三島みさ子先生(河北総合病院産婦人科部長)の紹介がなされた後、三島先生より「ある外科系女医(産婦

人科医)のキャリアアップについて」というタイトルで講演が行われた。

三島先生は、1990年に筑波大学を卒業後、東大医学部産婦人科学教室にて研修医を務められ、1992年に同教室に入局された。その後、東大病院にて文部教官となり、子宮鏡手術の立ち上げに参加したり、婦人科腫瘍病棟で勤務されたりしながら、1995年には産婦人科専門医を取得された。入局5年後に第1子を出産され1年間の育児休暇から復帰後、育児をしながら2年間の米国留学や7年間の病院勤務を継続されたが、子育ての時間を確保するために2007年より非常勤へと勤務体系をシフトされた。7年の非常勤勤務の期間は、週5日は、女性外来、不妊クリニック、健診などに勤務し、週末にはできる限り学会・研究会に参加するなど自己研鑽にも努められ、中高校生対象の性教育講演なども引き受けられたという。その後、お子様の成長に伴い、49歳の時に再挑戦のチャンスはここしかないと思い、常勤医へと復職を決意された。復職後はサブスペシャリティとして女性ヘルスケア専門医を取得され、虎の門病院産婦人科医長を経て、2018年より現在の河北総合病院産婦人科部長に就任された。三島先生がこれまでのご自身のキャリアパスで後悔していることとして、大学医局からの配慮があったのに婦人科腫瘍専門医の取得ができなかったこと(ただし子供にとっては自分の選択が最良であった)、病棟、手術などの外科医療から7年離れてしまったので、内視鏡手術などで技術的な遅れをとったこと、後輩指導の経験不足などを挙げられた。一方、感謝していることとしては、大学の医局に所属していたことにより、妊娠前から大きな病院で様々な分野(悪性腫瘍、内視鏡、不妊内分泌分野など)の指導を受けられたこと、復職の際に暖かく迎え入れてもらえたり、厳しく評価してくれたりした上司がいたこと、また、紆余曲折のキャリアをたどったことで良かった点として、産婦人科の幅広い領域を経験でき、育児中の医師の環境が理解できたことが挙げられた。

産婦人科医には多岐に渡るスキルや経験が必要とされる中、育児中の女医はマネジメント能力、忍耐能力、清廉潔白性などが高い点が有利となることもある。しかし問題点として、自己評価が低い、時間のかかる仕事や新たな分野への挑戦を避ける傾向があることなどを挙げられた。このような問題点を現役の女性医師たちはどのように克服しキャリアを形成しているか、同僚達へのアンケートによる事例を紹介された。その結果、医師のキャリアと育児を支えるポイントは、保育者の確保(特に18-20時)、職場での理解・励まし、複数主治医制、職住接近、健康管理とペースコントロール、同僚への配慮、自分の努力であると述べられた。また、産婦人科医の勤務状況と周辺環境のデータを呈示され、その考察として、病児保育設備の充実、夫の関わりが可能となる社会、外科医、救急、当直勤務医の働き方改革などの課題について言及された。最後に若手女医へのアドバイスとして、自身の健康管理(産婦人科的なことも含め)が大切であること、成長の可能性を狭めないよう「ここまではできます」「やらせてください」と自分のできる範囲を伝え、意欲を見せることが大切だと話された。そして、キャリアをできる限り諦めず、協力者への感謝を十分にしながらバックアップの仕組みの利用を惜しまないこと、まずは自分の一生をかける分野、やりたい分野を見つけましょうと述べられた。たとえ一時的に常勤を離れたとしても、復帰したいという意欲を見せていればその機会がきっと訪れる、若い人が活躍し女性医師に対する評価を高めてほしいとのメッセージで結語とされた。

質疑応答では、復職へのハードルや復職支援についての具体的な質問が寄せられ、三島先生からは豊富な経験に基づいたご意見やアドバイスをいただいた。第1部の終わりに中締め挨拶として、佐藤伸一男女共同参画委員会委員長より、ご講演いただいた三島みさ子先生への謝辞が述べられた。その後、第2部として自由歓談の時間が設けられた。今回も高校生の参加者があり、学生から教員まで幅広い立場の参加者が次々に三島先生を囲み、歓談に花が咲いた。ライフワークやキャリアについて情報を交換し合う有意義な時間となった。

III. 参加者アンケートの集計結果

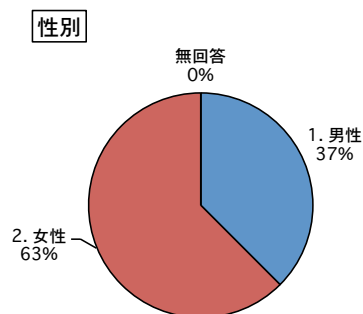
回収数：40件（回収率 72.7%）

回収方法：当日参加者にアンケートを配布し、回答を記入いただいた上、退場時に回収した。

< 基本情報 >

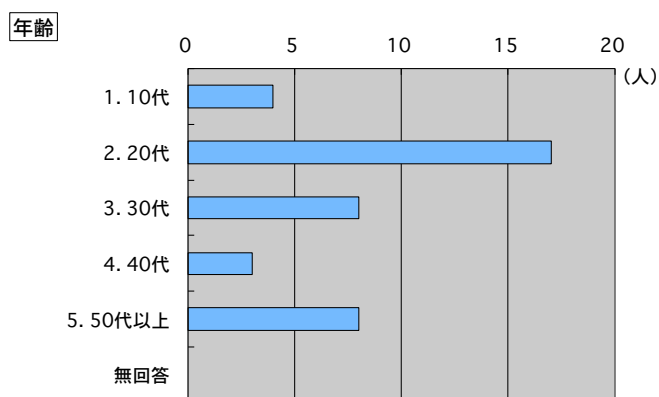
A1) 性別

性別	n	(%)
1. 男性	15	37
2. 女性	25	63
無回答	0	0
計	40	100



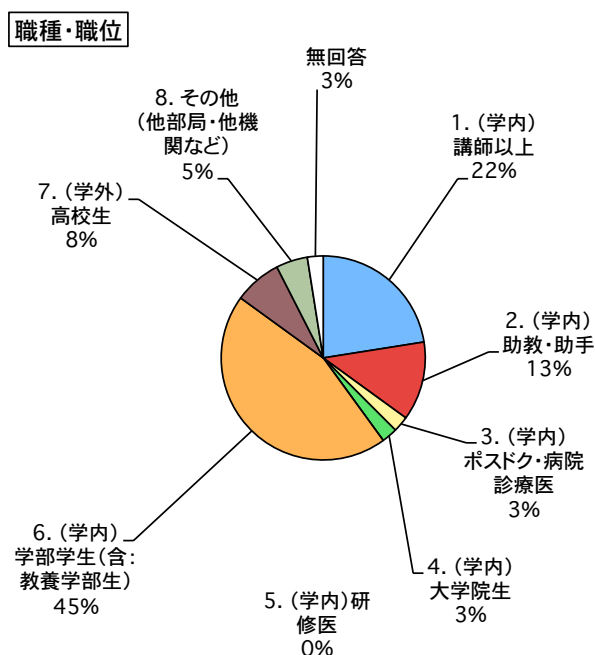
A2) 年齢

年齢	n	(%)
1. 10代	4	10
2. 20代	17	43
3. 30代	8	20
4. 40代	3	8
5. 50代以上	8	20
無回答	0	0
計	40	100



A3) 職種・職位（特任・客員を含む）

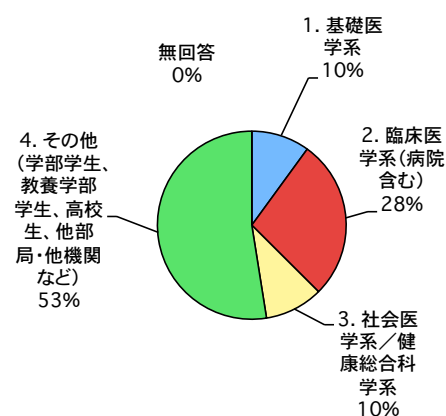
職種・職位	n	(%)
1. (学内) 講師以上	9	23
2. (学内) 助教・助手	5	13
3. (学内) ポスドク・病院診療医	1	3
4. (学内) 大学院生	1	3
5. (学内) 研修医	0	0
6. (学内) 学部学生(含: 教養学部生)	18	45
7. (学外) 高校生	3	8
8. その他(他部局・他機関など)	2	5
無回答	1	3
計	40	100



A4) 所属

所属

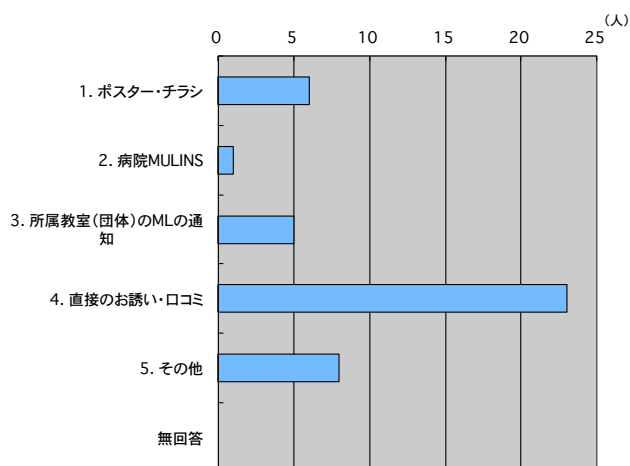
所属	n	(%)
1. 基礎医学系	4	10
2. 臨床医学系(病院を含む)	11	28
3. 社会医学系/健康総合科学系	4	10
4. その他(学部学生、教養学部学生、高校生、他部局・他機関など)	21	53
無回答	0	0
計	40	100



A5) この会を何でお知りになりましたか
(複数回答可)

会を知った媒体(複数回答可)

会を知った媒体(複数回答可)	n	(%)
1. ポスター・チラシ	6	14
2. 病院MULINS	1	2
3. 所属教室(団体)のMLの通知	5	12
4. 直接のお誘い・口コミ	23	53
5. その他	8	19
無回答	0	0
計	43	



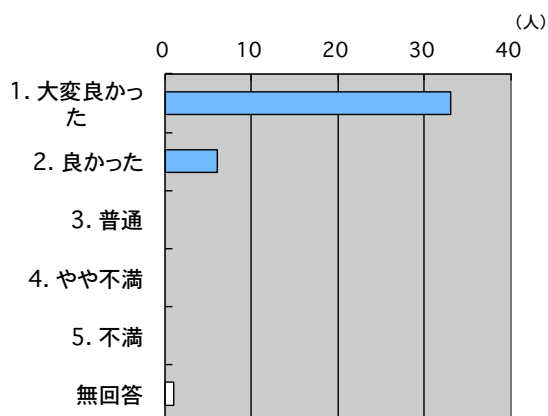
< 今回の企画の感想について >

B1) 講演 三島みさ子先生

「ある外科系女医(産婦人科医)のキャリアアップについて」について

講演(三島みさ子先生)

講演(三島みさ子先生)	n	(%)
1. 大変良かった	33	83
2. 良かった	6	15
3. 普通	0	0
4. やや不満	0	0
5. 不満	0	0
無回答	1	2
計	40	100



B2) 講演について、あるいは、本企画についての感想（自由回答）

今回の講演について：

- ・ 非常勤から常勤へ戻られた先生の話聞いたのは今回が初めてで、大変興味深かったです。
- ・ 一度非常勤になった女性医師の話は今年が初めてだったと思うので、面白かったです。
- ・ 非常勤での勤務しかできなかった時代にも、常にアンテナを張って、新しい分野へ進出するチャンスをつかもうとされていたからこそ、今日の三島先生がいらっしゃるのだと強く感じました。
- ・ 三島先生の医師という仕事への強い意欲に感銘を受けた。
- ・ ご本人のキャリアについての率直な思いをうかがうことができ大変ためになりました。
- ・ セキララに色々とお教え頂いて、とても参考になりました。
- ・ 常勤に復職するかどうかは結局のところ本人のやる気が一番大きい。恐れず踏み出す力ということでした。制度面でそれが当たり前な世の中にはまだなっていないようですかね。それが現実ですし、そのための1つのステップとして病児保育の充実があることがわかりました。
- ・ すばらしいです！
勇気をもらいました。医局後輩より。
- ・ 大変すばらしく勇気づけられるご講演でした。ありがとうございました。
- ・ とても勇気づけられる講演だった。男性医師と結婚し、キャリアも諦めずに仕事を続けている方がいると知れたのはもちろん、学生へのメッセージもあり、とても有意義な時間を過ごせた。
- ・ 分かりやすく丁寧なご講演で、本当に1時間興味深く伺わせて頂きました。良かった点、いろんな方のケースやアドバイスまで知りたかったことがぎっしりつまっていました。ありがとうございました。
- ・ 三島先生を始めとして様々な先生方のロールモデルについて詳しく拝聴でき、非常に興味深かったです。
- ・ 取った資格、先生の経歴を詳しく教えていただけて良かった。また、先生方の周りの女性医師についても知ることができたため、とても勉強になった。
- ・ 女性医師の例からの生の声が聞けました。
- ・ 外科医のリアルな体験をお聞きすることができ、大変参考になりました。
- ・ 産婦人科には以前から興味を持っていたので、具体的なお話を伺えてよかったです。
- ・ 具体的に、女性医師としてのキャリアを聞いて貴重でした。
- ・ 個人的なエピソードに大変励まされました。
- ・ 女医としての具体的なキャリアについてのお話を伺うことができ、とても参考になりました。
- ・ ご自身の年齢含め具体的にご紹介して下さり、自分の人生設計も考えなければと思った。
- ・ キャリアに関して考えるきっかけになりました。
- ・ 出産や育児と医師としてのキャリアとを両立するために、どのようなことが必要かということや、自分はそのためにどのような行動をするべきかということについて考えるきっかけになりました。本日はありがとうございました。
- ・ 育児と医師としての仕事を両立することの難しさやどのように大変な時期を乗り越え、どう感じていたのかをととても詳しくお話して下さい、これからのキャリアを考える上で勉強になり

ました。まだ学生で臨床の場面に出ていませんが、具体的な話がきけて、近い未来の事として考えることができました。

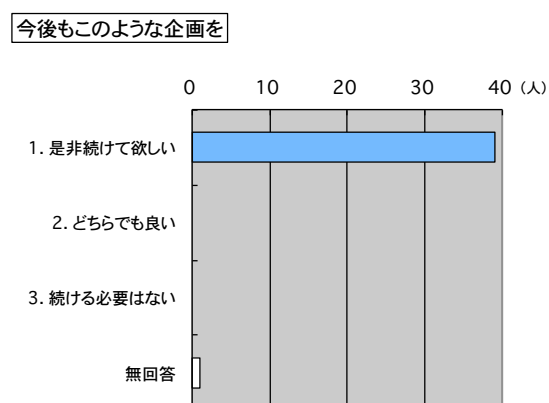
- ・ キャリアをとだえさせないためにどうすればいいかを考えるのに非常に参考になるお話が沢山出てきてとてもよかったです。
- ・ 自分がやりたいとスキルアップしたいという気持ちに遠慮しないことを心がけたいと思いました。
- ・ 子育てをしながらというのはやはり難しいということを感じました。人とのつながりを大切にしたいなあとも思いました。
- ・ 大変参考になりました。ありがとうございました。
- ・ よい質問が出て、大変参考になりました。医療現場における女性の医師の状況がわかりました。
- ・ 僕は男ですが、女性医師の職場での苦悩や境遇を知ることができ、良い機会でした。

今後の課題：

- ・ どのような育児支援が各科、病院であるのか。（様々な方の知恵をお聞きしたいです。）

B3) 今後もこのような企画を続けて欲しいと思われますか。

今後もこのような企画を	n	(%)
1. 是非続けて欲しい	39	98
2. どちらでも良い	0	0
3. 続ける必要はない	0	0
無回答	1	2
計	40	100



B4) 交流会の内容や今後の男女共同参画委員会の活動へのご意見ご要望（自由回答）

交流会について：

- ・ いつも開催ありがとうございます。毎回参加させていただく毎にパワフルな先輩方からヒントやエネルギーを分けていただいています。またがんばろう・・・と思っております。
- ・ （参加者の）男女の比率がほぼ同じで素晴らしいと思いました。
- ・ ぜひこのような機会がまた欲しいです。
男性の育児とキャリアの両立のお話も（まだまだあまり数はないですが）伺えたら嬉しいです。

- ・ 男性医師側から、女性医師と結婚した場合にどのようにお互いのキャリアを支えて行けば良いか知ることができる機会があると嬉しく思います。
- ・ 研究職を主な仕事とされている方のお話も聞いてみたいと思いました。育児などとの両立だけでなく、キャリアパス形成のお話も聴いて将来の参考にしたいと思いました。
- ・ 保育室があれば、もっと多くの方が聴きにこれる or 残れると思う。(時間が保育園送迎にかぶるので複雑)

男女共同参画委員会の活動について：

- ・ 今後も期待しております。
- ・ 今後もよろしくお願いいたします。
- ・ もう少し活動をアピールしてほしいです。

貴重なご意見を多数いただき、大変有難うございました。
本アンケートの結果を、今後の行事の企画・運営、および、男女共同参画委員会の活動に活かしていきたいと思えます。
今後も、当委員会の活動にご指導とご協力をよろしくお願い申し上げます。

東京大学大学院医学系研究科・医学部
男女共同参画委員会